

小学校低学年の部

最優秀賞 [大分県教育の日推進会議会長賞]

やさしさいっぱい由ふ市

由布市立挾間小学校 3年

にのみや なち
二宮 那智



わたしの住んでいる由ふ市は、地図で見ると大分県を中心にあります。春になると教室まで聞こえるように、市の鳥でもあるうぐいすが鳴いて春を知らせてくれたり、夏になるととてもきれいな川で泳いだりほたるを見ます。秋にはあちらこちらに赤や黄色のこうようがあり、冬には由ふだけに真っ白な雪がつもりさむさをつたえてくれます。そんな自ぜんがたくさんの由ふ市に、わたしは小学校の入学前に引っ越しをしてきました。お友だちも地いきの人もわからず、わたしはふ安な気持ちで入学しました。しかしそんなふ安な気持ちもすぐなくなりました。なぜかという、わたしが住んでいる由ふ市はさ間町では色いろな人がわたしたちを見守ってくれているからです。

たとえば、朝は近所のおじさんが「子どもはたからやな。今日もよい事がみんなにたくさんありますように。」と手をたたいて送り出してくれます。少し歩くと横だん歩道には、安全にわたれるようにボランティアの人が毎日立ってくれています。わたしはどれだけねむたくても「ありがとうございます。」とかならず言うようにしています。

学校では時どきオープンスクールの日があり、地いきの人がわたしたちのじゅぎょうの様子を見に来てくれます。少してれますが、来てくれる日はとってもうれしいです。学校がおわると登校はんでいっしょだった中学校のお姉さんが「いっしょに話しながら帰ろう。」と声をかけてくれます。

また、おぼんやハロウィンの時には地いきの人とおみこしをしたり、おかしをもらいに商店をまわったりして、いっしょに楽しんでくれます。こうしてわたしは、行事やいつもの毎日を通して地いきの人に見守られ、ふ安な気持ちからえがおの毎日になりました。

わたしは、由ふ市はさ間町の人が大好きです。

